

# 令和3年度 事業報告

## 岡山理科大学附属高等学校



新型コロナウイルス感染症の大流行による制約がありましたが、教育の質的改善に取り組み、サイエンスとグローバルを軸に「探求力・創造力・思考力」を身につけさせ、地域社会から一層信頼される高等学校づくりを推進しました。



本校の最重要課題は、グローバル化している社会に対応した教育を展開することです。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、様々な活動が制約される状況が生じましたが、以下の項目について学校改革を推進しました。

### ○人材育成と教育力の向上

新型コロナウイルス感染症拡大により、臨時休業によるオンライン授業の実施やアクティブラーニング手法の制限など、教育改善の取り組みに対して、厳しい制約が生じました。このため、ICT活用の研修などで教員の教育力を高め、生徒一人ひとりに導入してきたiPadを効果的に活用して、オンラインでも質の高い教育の実施に努めました。

また、アクティブラーニング手法が制限される中では、人材育成の基本となる基礎学力の定着に重点を置いた教育を実施しました。国際バカロレアコースでは、その教育手法の活用により、グローバル社会で求められる学力やスキルの育成が実現されてきました。

### ○国際理解と国際貢献に関わる教育の推進

学園が協定を締結している交流協定校との交流をオンラインで実施し、国際交流と異文化理解を促進する活動を進めました。交流のテーマとしてSDGsを取り上げ、国際貢献への意識の向上をはかりました。また、オンライン英会話や英単語AI学習アプリの導入など、実用的な英語力の強化を進め、グローバル社会で「生き抜く」基礎力の養成に努めました。

### ○高大連携と社会連携の強化

岡山理科大学を中心に、関連大学の理解と協力を得て、生徒の創造力、好奇心や専門性を育み、キャリア形成に繋がる高大連携教育を積極的に実施しました。また、校外ボランティア活動を実践し、地域や社会への貢献と意識の醸成を進めました。

### ○組織力の強化

校務分掌やコースなど校内部署での業務立案を促し、学校運営会議で検討して職員会議で情報を共有するという効率的で能動的な学校運営を進めました。さらに、附属中学校と連携する効率的な組織運営について検討を進め、令和4年度からの実施案をとりまとめました。

### ○経営基盤の安定

生徒の確保に向けて教職員が一丸となり、また、岡山理科大学や関連専門学校の協力を得て、広報活動の戦略化とその強化に取り組みました。コロナ禍により活動が制限されたものの、受験者数や入学者数が増加する成果が得られました。また、学校経営の安定に繋がるように、生徒及び保護者が満足できる学校、地域から認められる学校としての発展に、教職員が一丸となって努めました。

岡山理科大学附属高等学校 校長 田原 誠

## I. 教育について

1. 人材育成と教育力に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
<p>生徒が持つ、資質や能力を十分に伸ばすとともに、サイエンスとグローバル教育を推進する。</p>	<p><b>■サイエンスおよびグローバル教育の推進</b>            生徒の学習意欲の向上と学習習慣の確立を図るとともに、基礎・基本的な知識や技能を高め、学力の定着と個々の成長に努める。            授業や部活動など全ての教育活動を通じ、物事を客観的、論理的に捉え、自己の意見を適切に表現できる力を有するグローバル社会に適応できる人材の養成を図る。</p>	<p><b>■サイエンスおよびグローバル教育の推進</b>            新型コロナウイルス感染症対策のために実施したオンライン授業で、学習習慣が乱れた生徒も多くいたため、どの学年も授業進捗の影響が出ない範囲で、基礎学力の定着に重点を置いた指導を行った。</p>
<p>生徒一人ひとりのニーズを把握し、きめ細かな実践型指導を推進する。</p>	<p><b>■アクティブラーニングの推進</b>            教員一人ひとりが、教科教育の専門性を高め、授業の質的改善を行い、生徒の基礎・基本的な学力を定着させ、生徒に応じた細やかな教育指導を行う。さらに、実践的な協働学習の充実を図り、生徒が意欲的に学習できる環境の構築に努める。</p>	<p><b>■アクティブラーニングの推進</b>            新型コロナウイルス感染症対策のため授業の進め方を大幅に見直した。アクティブラーニングの推進を目指し、グループ討議や協働学習を取り入れる計画だったが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、これらの活動は控えた。生徒の個々の学習活動で、個人的な見解をまとめ発表させる指導に切り替えて実施した。</p>
	<p><b>■ICT活用教育の推進</b>            Classi や Google Classroom の機能を授業や復習など学習活動に活用する。iPad を利用した教授法や学習法の研究を進め、授業中に実践的、体感的な活動が生まれるように努める。積極的に校外の研修に参加し、整備されているインターネット環境を有効活用する。昨年度、新型コロナウイルス感染症による休校時に実施したオンライン授業について検証し、ICT教育の改善に活用する。</p>	<p><b>■ICT活用教育の推進</b>            臨時休業のためにオンラインでの教育提供が求められた。ICT推進担当主催の校内研修会を開催して教員の活用技術の向上を推進した。また、動画作成方法や iPad の効果的な活用など様々な場面での有効活用を検討し、実践した。            生徒は1人1台 iPad を持参し、校舎の88%がWi-Fi 接続可能な環境を実現しており、小テストやアンケートの実施、授業ノートのクラウド保存および自己を振り返るポートフォリオの作成を行った。            全教員がオンライン授業を行えるように、指導法や教材作成の研究を行うとともに研修会を実施した。</p>
	<p><b>■基礎学力向上への取り組み</b>            学習内容の定着を目的に、単元のまとめ段階での確認テストを行う。また、100分授業の利点を有効に活用して発表や討論の時間を設定し、対話的な協働学習を進める。学習内容を効果的に定着させる指導法の研究を進める。</p>	<p><b>■基礎学力向上への取り組み</b>            新型コロナウイルス感染防止の観点から対話的な活動は控えているが、単元単位での学習内容定着のための単元テストや確認テスト等の活動を実施した。</p>

	<p>■生徒一人ひとりのニーズの把握 Classi のポートフォリオ機能や LHR でのアンケート調査などで、クラス担任が生徒一人ひとりの学習状況とニーズを把握し、学習指導を行う。</p>	<p>■生徒一人ひとりのニーズの把握 令和3年度からの新たな大学入試において、Classi に繋がるポートフォリオの利用が見送られ、大学入試での活用の機会はなくなったが、各担任が担当する生徒の活動状況把握等で活用した。また、高学年においては受験時の出願書類（志望理由書等）作成の基礎資料として活用した。</p>
	<p>■進学指導プログラムの充実 外部テストのデータを活用し、進路目標に合わせた学習到達目標を設定して指導を進める。 岡山理科大学との高大連携により、進路目標の設定に関して教授陣から指導を受ける機会を創設する。</p>	<p>■進学指導プログラムの充実 校外模試などの外部テストについては、各コースで生徒の現状にあう学習到達目標へ向け、基礎学力の向上、志望校のレベルへの到達など生徒個々のレベルでの学力向上に努めた。進学指導の際の基礎資料として最大限に利用した。</p>
<p>リーダーシップやチーム力を発揮できる人材を育成する。</p>	<p>■国際バカロレア (IB) 教育プログラムの実施 IB ディプロマ・コースでは、自らの力で考える思考力とコミュニケーションを基軸とする協調性の養成を更に進める。プレゼンテーションなどの実施を通して伝える力を育成し、リーダーシップとチームワークを発揮できる人材を育成する。</p>	<p>■国際バカロレア (IB) 教育プログラムの実施 国際バカロレアディプロマプログラムの開始は2年次からで、初めてのディプロマプログラムが始まり、IB独自の教育手法を活かし、協働学習やプレゼンテーション等、生徒がアクティブに学べる環境下で、生徒にはかなりの成長が見られた。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、協働学習は思うように実施できなかったが、規模を縮小して各生徒がそれぞれの役割を分担し、共に探究し、コミュニケーション力、社会性スキルを養っている。プレゼンテーションについては苦手意識を持っていた生徒もいたが、現在は臆することなく、すべての生徒が論理的に発表できるようになった。フィリピンの生徒との協働学習をオンラインで実施した。この活動を通して、英語によるコミュニケーションを実践し、多様性の理解と俯瞰的な考え方を深めることができた。このような教育環境下で生徒はそれぞれの地域、および、世界で活躍できるリーダー性を培っていると考えている。</p>
	<p>■リーダーシップやチーム力を育む教育の推進 チームワークの大切さを実感できるよう、共同で作業を進める場面を授業に取り入れる。また、その作業のまとめとして、日本語または英語で発表することでプレゼンテーション能力を高める。学習発表会や文化祭、外部団体主催の研究会など校内外の機会を利用して、学習内容のプレゼンテーションを行う。</p>	<p>■リーダーシップやチーム力を育む教育の推進 新型コロナウイルス感染症対策のため、協働学習は行うことができなかったが、学習内容を発表するための調べ学習などの作業は個々に行わせた。また、学習のまとめとしてのプレゼンテーションは、口頭発表に加え新型コロナウイルス感染症対策のために展示発表も導入した。</p>

## II. 学生支援について

1. 正課外活動支援に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
<p><b>正課外活動に対する支援</b></p>	<p><b>■正課外活動支援の充実</b></p> <p>精神と身体の高揚を一体的に喚起する教育活動を実施するとともに、正課外活動を通じて社会性に優れた人材の育成を進める。</p> <p>校外の施設訪問や清掃ボランティア活動などを行うことで、座学では得られない奉仕の精神や活動による達成感を得られる。</p> <p>部活動を充実させ、身体的能力の向上、文化的資質の向上を目指す。また、生徒一人ひとりに目標を設定させて活動を促す。</p>	<p><b>■正課外活動支援の実施</b></p> <p>グローバルサイエンスコースでは、通学路の一斉清掃を7月、12月に実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、計画していた施設訪問は実施できなかった。来年度実施が可能か検討している。</p> <p>部活動は、新型コロナウイルス感染症拡大により岡山県教育委員会からの方針に従い、活動の制限を実施した。</p> <p>制限解除期間は校内での練習は開始したが、遠征等の対外試合には制限を設け、高体連などが主催する全国大会については、試合開催の1ヶ月前からの練習を可としたが、生徒に目標設定させることが難しい状況の中、活動を行った。</p>
2. 多様化する生徒支援に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
<p><b>多様化する生徒支援</b></p>	<p><b>■教育相談体制の充実</b></p> <p>多様な生徒のニーズに応じた細やかな教育指導と生活指導の充実を図る。</p> <p>生徒一人ひとりの養育歴や家庭環境に配慮し、保護者と連絡を取り合い、最適な指導方法を研究する。また、担任は教育相談室や外部機関と連携をとり、多角的に生徒を見守る。複数相談員の体制を整える。必要に応じて教職員研修を実施し、生徒のニーズ、社会のニーズに対応する教育環境の整備を進める。</p>	<p><b>■教育相談体制の充実</b></p> <p>カウンセラー二人体制で、生徒一人ひとりに応じた教育相談が実施できるよう努めた。また、外部機関との連携を図りながら、円滑な指導体制でカウンセリングに臨んだ。</p> <p>相談件数の増加や複雑化する相談内容にカウンセラー二人体制での対応は物理的に難しくなっている。カウンセラーの増員が必要となってきた。</p>

### Ⅲ. 国際化について

1. 国際理解と国際貢献に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
<p>国際化を日常的なものにするとともに、多角的な国際交流事業の更なる充実を図る。</p>	<p><b>■交流協定校との交流</b></p> <p>国際理解に重点を置き、異文化交流に積極的に取り組む。生徒に国際的感覚を身近に感じさせるために、留学生を可能な限り受け入れ、また、海外校との交流協定を締結し、留学制度を確立させる。</p> <p>交流協定により訪問を受ける外国からの研修団との交流、関連大学からの留学生との交流などの機会に、生徒を積極的に活動させることによって、異文化交流を推進する。</p> <p>本校の授業を履修・修得できる日本語力を持った留学生を受け入れ、本校の日本人学生と交流することで、生徒の交流に向けた学習意欲の向上を行う。</p> <p>海外研修、短期留学、長期留学の推奨によって、国際理解教育の推進を図る。ネイティブ教員を増員することによって、教員にも多様性をもたらす。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症に伴う出入国の制限のため、本年度は上記のほとんどの交流計画は実施できる見込みはないが、オンラインによる交流の実現を積極的に図る。</p>	<p><b>■交流協定校との交流</b></p> <p>令和3年度も、昨年度同様コロナ禍で海外の交流協定校との行き来は叶わなかったが、フィリピン・バギオ大学附属高校の生徒とIBコース1・2年生とのオンラインでの協働学習を実施した。現地の学生と本校生徒とのミーティングを通して、異文化交流やグループワークを実施した。</p> <p>また、韓国・木洞高校と総合進学コース2年A組とのオンライン文化交流が実施できた。年末だったので、寅年の絵馬を準備し、お互いに令和4年の抱負について語りながら、日本語で書き込んだ。次年度は、韓国・木洞高校でのホームステイ研修旅行や本校での受け入れ、オーストラリア・ケアンズ研修旅行を計画している。</p>

<p>英語運用能力（聞く・話す・読む・書く）の向上を図るために、英語の「基礎学力」の定着及び「応用力」の伸長に対応できる指導法を工夫する。</p>	<p><b>■英語教育の強化</b></p> <p>英語能力を向上させるために英文教科書のみならず、各種英語検定用のテキストや指導法を導入し、英語でのコミュニケーション能力の育成を図る。また、国際バカロレア・ディプロマ教育の実施により、英語を利用した海外への進学の可能性を築いていく。</p> <p>ケンブリッジ英語検定の受験を視野に入れた検定対策授業をグローバルサイエンスコース、スポーツサイエンスコース、中高一貫コースに設定し、ケンブリッジ英検の受検を積極的に促す。また、ケンブリッジ英検以外の英語検定への受検も全校をあげて積極的に促す。</p>	<p><b>■英語教育の強化</b></p> <p>新学習指導要領により、本校生徒の4技能5領域の習得を目指し、インプット・アウトプットを意識した教材を導入することとした。Weblio オンライン英会話は導入してから4年目になる。一昨年度の途中から経済産業省のEdTech事業の一環として、DMM オンライン英会話を採用し、無料お試し期間を経て、現在では、もっとスピーキングが学びたいという希望に答え、DMM オンライン英会話の受講希望者を募って継続的に受講している。</p> <p>令和3年度の途中から、英語自学アプリの「モノグサ」を特定コース・クラスで試行実施をした。英単語のAIを搭載したアプリで学習することが思いのほか生徒からの反応がよく、熱心に取り組んでいる。オンライン授業期間中でも英単語アプリの活用度合いや英単語の記憶状況が管理画面からひと目で把握でき、50問テストで習得具合が評価できる。また、自発的な学習が大いに見込める。ポキャブラリーが増えてくると、読む・書く・聞く・話すの幅が広がってくることを期待できる。</p> <p>また、各種英語検定への受験を積極的にすすめ、リスニングやスピーキングへの学習を促した。</p>
	<p><b>■国際バカロレア (IB) 教育プログラムの導入</b></p> <p>インターナショナルコース、国際バカロレアコースが中心となって、イングリッシュキャンプ（研修）を行い、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上を目指す。</p> <p>英語学習の動機づけ、英語の基礎力の定着を目指し、eラーニングやオンライン英会話を積極的に活用する。</p>	<p><b>■国際バカロレア (IB) 教育プログラムの導入</b></p> <p>国際バカロレアコースおよびインターナショナルコースでは、英語での授業が行われることから、英語学習の動機づけや英語の基礎力の充実を図るプログラムを実施した。</p> <p>さらに国際バカロレア教育では必要な「コミュニケーション力」、「プレゼンテーション力」を育成するために、授業中のみならず課外を利用して「考えるカフェ」などのイベントを行い、論理的思考力を養った。</p> <p>オンライン英会話を正課の授業に導入したグローバルサイエンスコースでは、会話練習のツールとして活用している。また、国際バカロレアコースやインターナショナルコースを中心に、全校生徒に募集をかけ、希望者を一般契約より廉価での学校契約として業者と契約を結び、主に自宅で受講させた。課外での25分のオンライン英会話を受講させることで生徒の自律的な学習を促すきっかけとなった。また、関係教員には、生徒の受講状態が確認できるシステムがあるため、受講回数が少ない生徒への指導を行った。</p>

## 社会連携・貢献について

### 1. 高大連携・社会連携に関する中期目標

中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
<p>学習において、岡山理科大学との高大連携の強化を図るとともに、生徒の学力の伸長を目指す。</p>	<p><b>■関連校との高大連携による質の高い教育の提供</b></p> <p>生徒に関連校の大学の講義等を履修する事で、学習の学問的な発展などに興味を抱かせ、大学進学後の取得単位認定につなげることで、高大連携を強化する。また、生徒が大学の教育研究に触れることで、生徒一人ひとりの能力・適性や自己の発見と成長に繋がりたい。</p> <p>岡山理科大学との連携、各学年に高大接続担当を置き、円滑な活動に配慮する。</p> <p>岡山理科大学との高大連携の中心であるグローバルサイエンスコース1年次、2年次のサイエンスワーク（大学聴講）、2年次、3年次のゼミ活動については、開講科目の増加による充実を図る。</p>	<p><b>■関連校との高大連携による質の高い教育の提供</b></p> <p>高大連携教育として岡山県唯一の教育プログラムである1年次のサイエンスワークでは、研究の面白さや、科学の多様性や研究の多様性を認識させつつ、講義のテーマとした分野に関係した高校での学びとの関連を理解することができた。また、2・3年次では大学の研究室において課題を設定し、その課題を解決するための方法を学ぶことができた。その中でもゼミ活動に参加して、その研究室が対象としている研究分野の研究手法や研究の進め方、さらに卒論発表会などへの参加によって、科学の世界におけるコミュニケーション方法の理解を深めることができた。</p> <p>岡山理科大学の約50名近くの教授陣と本校教員で「同じ立地内にいる高校生を高校・大学で育てる」ことの将来図がしっかり見えてきた。長期的に継続していくためにも、プログラムの精査と変化を常に発展的に考えていくことを念頭におき実施した。</p>
	<p><b>■岡山理科大学への進学支援</b></p> <p>高大連携によって岡山理科大学とのマッチングを進め、能力と意欲を持った生徒が大学に高く評価されて受け入れられる道を築く。</p>	<p><b>■関連校への進学支援</b></p> <p>コロナ禍の休業のため4、5月は実施できなかったが、6月以降、グローバルサイエンスコースを中心として「サイエンスワーク」、「課題研究」等に取り組んでいる。また、8月7日（金）には『大学教職員による「自分レベルアップ面談会」』と題して岡山理科大学の教員が本校生徒を対象に広く進路選択のアドバイスを行う会を実施した。</p>
<p>社会との協働で、生徒の視野が広くなり常識的な習慣を身につけられるように、社会との繋がりを強化する。</p>	<p><b>■提携企業等と連携した教育の提供</b></p> <p>授業を設定せずに様々な活動にあてることのできる自主活動期間を中心に、福祉施設や校外清掃活動などボランティア活動の場を提供する。自主活動期間や長期休業中におけるキャリア教育の一環として職場訪問を計画する。このような多様な社会体験により、社会人として必要な知識や技能を身につけ、実社会で生き抜くために役立つ多様な能力を養成する。</p> <p>家庭と協力し、県や市が主催するコミュニティ活動、地元の町内会活動など校外の諸活動への積極的な参加を促し、社会の一員としての意識を醸成する。</p>	<p><b>■提携企業等と連携した教育の提供</b></p> <p>コロナ禍のため、学校再開後は生徒が自ら目標を定める自主活動期間にも通常の授業を行ったために、学外での取り組みができなかった。そのような状況の中でも、7月と12月に各回約20名の生徒と教員が岡山駅西口から運動公園までの「ボランティアロード」の清掃ボランティアを実施した。</p>

	<p>■国際バカロレア (IB) 教育プログラムの導入</p> <p>国際バカロレア教育のコアとなる「創造性・活動・奉仕」活動に倣い、他のコースにもボランティア活動や社会体験を積極的に導入する。</p>	<p>■国際バカロレア (IB) 教育プログラムの導入</p> <p>年度始めに生徒から「校外学修申込み」を提出させ、通年にわたり、CAS コーディネータが個別に活動を見守り、年度末に年間の活動記録を教務課にて提出し、評価及び単位認定をした。</p>
--	---	---

## V. 組織・運営について

1. 組織力の向上に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
<p>学校の方向性に対して教職員が一丸となり、ベクトルが一つになるような組織作りを目指す。</p>	<p>■学校運営会議の強化</p> <p>教育職員と事務職員が一体となり、附属高校の方向性を共有するために、運営会議、コース会議、教科会議などを定期的に開催し、協議した内容を全校の職員会議に諮る強力な運営体制を維持継続する。さらに、校務組織を簡素化して全員が校務運営に参画できるように改革し、構成員の意識の向上に努める。</p> <p>学校運営会議は毎週行い、学校を取り巻く現状を報告、確認することによって、学校運営に必要な措置を講じる。</p>	<p>■学校運営会議の強化</p> <p>校務運営組織のそれぞれの課、コース、教科単位で業務を能動的に立案し、学校運営会議で検討し、職員会議に諮る、という流れを遵守し、業務について教職員全員で共通理解を得られるようにした。</p> <p>高校入試をとりまく状況、本校の入試と入学者の状況、大学進学状況、模擬試験結果と進学結果などの数値を逐次とりまとめて、情勢の共有を行った。</p> <p>令和4年度に向けて校務組織の見直しを行った。</p>
	<p>■コース会議、教科会議の強化・連携</p> <p>コース会議、教科会議を定期的に開催し、議事録によって検討事項、決定事項を校長、教頭に報告する。</p>	<p>■コース会議、教科会議の強化・連携</p> <p>教科会議における検討事項、決定事項は教科主任が議事録を提出することにより、校長・教頭へ報告した。</p>
	<p>■職員会議の強化</p> <p>職員会議以外にも、メールによって、教職員間の情報共有を図る。</p>	<p>■職員会議の強化</p> <p>教職員への連絡事項は、職員朝礼、学内メール、Classi を利用し、情報共有を図った。</p>
	<p>■校務横断的な取組み</p> <p>複数の部署に関係する案件は課長が中心となり、校務横断的なプロジェクトチームを編成し、業務の遂行を図る。</p>	<p>■校務横断的な取組み</p> <p>校務横断的な取り組みを可能とするため校務組織の見直しを行った。</p>

<p>学校運営が円滑になるように、チームリーダーの養成や研修を実施し、それが全体へ波及するような仕組みを考える。</p>	<p><b>■教職員の資質向上への取組み</b>          各種の研修やワークショップ等への参加を通じて、個々のスキルアップを図り、組織の一員として自己の確立へ導く。          外部団体主催の教科指導に関係する研修を重要視し、研修への参加を強く勧める。特に、新教育課程、大学入試対策に関する研修には積極的に参加できるよう環境整備を図る。          研修で得た情報は、職員会議や校内ワークショップにて全教員で共有する。</p>	<p><b>■教職員の資質向上への取組み</b>          新型コロナウイルス感染症対策のため、各種の研修が取りやめになったが、オンライン授業を実施するための ICT を活用した指導法の研究、研修を実施したことで教員個々のスキルアップにつながった。</p>
--	--	--

## VI. 内部質保証について

1. 内部質保証に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
<p>内部質保証システム体制の確立。</p>	<p><b>■学校運営会議の強化</b>            教育職員と事務職員が一体となり、附属高校の方向性を共有するために、運営会議にて具体的な運営方針を定め、全教職員への周知徹底を図る。</p>	<p><b>■学校運営会議の強化</b>            校務運営組織のそれぞれの課、コース、教科単位で業務を能動的に立案し、学校運営会議で検討し、職員会議に諮る、という流れを遵守し、業務について教職員全員で共通理解を得られるようにした。            高校入試をとりまく状況、本校の入試と入学者の状況、大学進学状況、模擬試験結果と進学結果などの数値を逐次とりまとめて、情勢の共有を行った。            令和4年度に向けて校務組織の見直しを行った。</p>
	<p><b>■教科会議の強化</b>            教科指導に関しては、教科主任が中心となり、授業研究を進める。</p>	<p><b>■教科会議の強化・連携</b>            教科会議における検討事項、決定事項は教科主任が議事録を提出することにより、校長・教頭へ報告した。</p>
	<p><b>■授業評価による授業の改善</b>            教頭、教頭補佐等によって授業評価を行い、教育の内容と教員指導力の改善などを進める。また、生徒による授業評価を実施し、授業担当者による効果的な授業の進め方を検討する。(非常勤講師を含め全教員対象として実施予定)</p>	<p><b>■授業評価による授業の改善</b>            新型コロナウイルス感染症拡大防止による授業時間の確保を最優先したため、詳細な授業評価は行わなかったが校長、教頭による授業視察を随時実施した。</p>

## VII. 運営・財政基盤について

1. 経営基盤の安定化に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
生徒を安定的に確保するために志願者の増加を図る。	<p><b>■広報活動の充実</b></p> <p>附属高校としての評価を高めるためにブランディングを定め、教育活動並びに教育内容を多角的に伝え、広報活動の充実を図る。また、部活動は広報的要素が大きいことから、教育と併せた広報活動を展開する。さらに経営状況の分析をもとに、効率的、効果的な広報活動の展開を進める。</p> <p>岡山理科大学との連携を最大の特徴として広報活動の充実を図る。</p> <p>中学校訪問、塾訪問、学校説明会開催により各コースの特徴をわかりやすく周知することで、本校が求める生徒像を外部に具体的に発信する。</p> <p>広報活動の迅速化、効率化を図れるように、ハード面、ソフト面で入試広報課への支援を増やす。特に、昨年度導入したインターネット出願システムを効率よく利用することで、広報活動の効率化と受験者数の確保を進める。</p>	<p><b>■広報活動の充実</b></p> <p>今年度も前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症への対応によりイベントの中止または延期があり、急遽ミニオープンスクールや地区別説明会を追加することでイベントへの参加者数の確保を図った。</p> <p>岡山理科大学を含む関連大学・専門学校との連携をアピールするためオープンスクールでは大学の教授による講演会も実施した。結果として、グローバルサイエンスコースの入学人数の増加に繋がったと感じた。来年度も引き続き関連大学・専門学校との連携をアピールしたい。</p>
	<p><b>■入試制度の検討と見直し</b></p> <p>インターネット出願システムを活用し、受験生や中学校の負担の軽減、入試業務の簡素化、迅速化をさらに進める。</p> <p>競技人口の多い競技を部活動として志望する生徒を積極的に募集することによって、生徒増を図る。</p> <p>社会が本校に求めているニーズを精査し、従来のコースや系の再編成、新しいコースや系の設立など魅力的な学園作りを進める。</p>	<p><b>■入試制度の検討と見直し</b></p> <p>インターネット出願の認知度が中学生・中学校教員へ高まったと感じた。受験生や中学校の負担の軽減につながったが、さらに募集要項の内容の精査及び説明会等での周知等で出願者や中学校教員への一層の負担軽減を図る予定である。</p> <p>今年度は競技人口の多い部活動を志望する生徒への積極的な募集は効果があり、入学生徒増へ繋がった。</p> <p>今後に向けて本校の入試と入学者の状況などの結果をとりまとめる中で、本校の特徴、本校への社会的ニーズ、当面の間の方向性を示唆する結果を得た。</p>

<p>補助金など学外資金の獲得を強く推進する。</p>	<p><b>■外部資金獲得のための教育活動の強化</b></p> <p>生徒を安定的に確保することで、補助金の交付額の改善を導き、学校の安定経営に繋げる。また、文部科学省などが推進する事業を活用し外部資金を獲得することで、教育内容を深め、生徒の学習意欲の高揚に繋げ、募集活動が幅広く展開できるよう努める。</p> <p>募集定員数の生徒を確保できるよう、全教職員が協力して入試広報活動に取り組む。</p> <p>外部資金を獲得できる教育活動の導入に関して検討を始める。</p>	<p><b>■外部資金獲得のための教育活動の強化</b></p> <p>学校の安定的経営は入学者の確保によるところが大きく全教職員での募集活動を行っている。新型コロナウイルス感染症対応のため、オープンスクールの開催回数は例年より減少したが、中学校訪問、地区別説明会、入試解説講座は以前と同様に実施した。</p> <p>外部資金を獲得できる教育活動の導入に関して引き続き検討を行う。</p>
-----------------------------	--	--

## 主な行事予定

4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月18日	1期入学式（通信）
7月19日	全校集会
8月29日	2期入学式（通信）
8月30日	全校集会
12月12日	2期卒業式（通信）
12月24日	全校集会
12月26日	3期入学式（通信）
1月9日	県外生入試
1月27日、28日	選抜1期入試
2月21日	選抜2期入試
3月4日	卒業式
3月13日	3期卒業式（通信）
3月18日	終業式

## 生徒・教員数

### ■在籍学生数

(令和3年5月1日現在)

課程・学科・コース名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
全 日 制 課 程	普通科	グローバルサイエンスコース	80	267	1,200
		総合進学コース	180		
		国際バカロレアコース	20		
		スポーツサイエンスコース	80		
		中高一貫コース	40		
全日制課程 計		400	267	1,200	786
通信制課程 (広域) 普通科				600	50
総 合 計		400	267	1,800	836

(単位：人)

### ■卒業生数等一覧

(令和3年度)

区分	卒業者	就職希望者			就職率	進学希望者		
		A	B	B/A		C	D	D/C
全日制課程	250	32	32	100%	218	211	97%	
通信制課程	13	2	1	50%	3	3	100%	

(単位：人)

主な進学先	岡山大学、広島大学、香川大学、岡山県立大学、青山学院大学、駒澤大学 立命館大学、京都産業大学、関西大学、関西学院大学、近畿大学、甲南大学 川崎医科大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、吉備国際大学 他
主な就職先	クラレテクノ(株)、いすゞ自動車(株)、(株)桂スチール、JFEロックファイバー(株)、カーツ(株) トータル物流(株)、備南工業(株)、光軽金属工業(株)、カネツ金属工業(株) シーアール物流(株)、一般社団法人岡山歯科医師会 他

### ■教職員数

(令和3年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
1	2	55	58	14

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和3年度 予算額	令和3年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	484,694	471,219
		経常費等補助金	242,511	252,286
		その他収入	61,340	102,233
		計	788,545	825,738
	支出	人件費	764,300	762,936
		教育研究経費	247,567	234,282
		管理経費	111,585	119,260
その他支出	0	0		
計	1,123,452	1,116,478		
教育活動収支差額			△ 334,907	△ 290,740
教 活 外	収入	受取利息等	0	2
	支出	借入金利息等	4,903	4,894
	教育活動収支差額		△ 4,903	△ 4,893
経常収支差額			△ 339,810	△ 295,632
特 別	収入	資産売却差額等	0	4,978
	支出	資産処分差額等	36,266	41,991
	特別収支差額		△ 36,266	△ 37,013
基本金組入前収支差額			△ 376,076	△ 332,645
基本金組入額合計			△ 32,842	△ 45,474
当年度収支差額			△ 408,918	△ 378,119

### ■施設設備整備事業（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
I Bコース HR (1-2-7 教室) 内装改修工事	4,770
第七校舎耐震改修工事	15,113

### ■財務改善に向けた取組み

安定した学校運営を行うために、定員の確保を最優先課題として受験生のニーズに沿った募集活動を展開するとともに体力のある組織を構築するために、改革と削減に加えて選択と集中により人件費及び教育研究経費、管理経費の全体適正に取り組んだ。